

名古屋の市営交通は おかげさまで 2022年8月1日に100周年を迎えました。

1922年8月1日に、名古屋市交通局の前身である名古屋市電気局が、民間会社から市内の電気軌道事業(路面電車)を引き継ぎ、名古屋の市営交通の歴史が始まりました。この100年の間には、世界恐慌や第二次世界大戦、伊勢湾台風など困難な時代もありましたが、常に輸送サービスの向上を目指し、市民の皆さまとともにあゆんでまいりました。

この度、市営交通100周年記念ドニチエコきっぷを発行するにあたり、中でも市営交通100年の歴史を象徴するシーンを3枚のきっぷのデザインに採用しました。

皆様のお手元で、きっぷに詰まった歴史に思いを馳せ、これからの交通局にも愛着を持っていただけましたら幸いです。

市営交通の誕生と 市営バスの創業

市営交通が誕生した頃の名古屋は、街路、運河、公園などが整備されはじめ、本格的な大都市の姿にかわりゆく時代でした。きっぷの写真は当時の南武平町(現在の東区東桜一丁目付近)の様子です。

その後、1930年(昭和5年)2月1日に市営バスが創業し、その当時はボンネットバスが走っていました。

地下鉄の開通

1957年(昭和32年)11月15日、9時48分。名古屋駅1番ホームでテープカットののち、拍手と万歳の嵐の中、初電車が栄町へ発車しました。この時わずか名古屋-栄町間2.4kmでした。地上では「祝 地下鉄開通」のアドバルーンが上がるなど、街中は華やかなお祭り気分に含まれました。

次の100年に向けて

市内全域に769kmのきめ細やかな路線網を有し、機動性に優れた「市バス」。6路線93.3kmの路線網で、高速かつ定時性で大量輸送が可能な「地下鉄」。

現在、市営交通は市バス・地下鉄の一体的なネットワークで、身近で利用しやすい交通手段として重要な役割を担っています。

これからも安心・安全で快適な交通サービスをお届けしていきます。

第1弾

市営交通誕生当時の市電切符

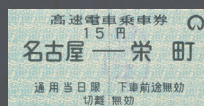


創業当時の市バス切符



第2弾

地下鉄開通記念乗車券



地下鉄切符



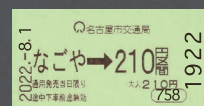
市電切符

市バス切符



第3弾

現在の乗車券



地下鉄切符



市バス切符

表紙デザイン

(おもて面) 地下鉄開通時の車両で使用された銘板

(うら面) 上部: 地下鉄開通の発車式(1957年(昭和32年)名古屋駅) 下部: 市域拡大に伴うバス路線延伸を祝う人々(1964年(昭和39年)守山区幸心)